

保健医療福祉施設における「非常 用飲料水・非常食の備蓄」に関する 実態調査

(第2報 介護保険施設調査結果)

日本看護管理学会「災害に関する看護管理推進委員会」

洪愛子, 上田順子, 岸野真由美, 佐藤美子, 庄野泰乃,

竹内貴子, 長井友利子, 原玲子, 前田ひとみ, 松尾文美

発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・組織および団体等はありません。

調査目的

わが国における病院*および介護保険施設における「非常用飲料水・非常食の備蓄」に関する実態と課題を明らかにする。

非常用飲料水・非常食のマニュアルの整備を進めるための情報の発信等，課題解決に向けた方向性を検討する。

* 2018年医療施設実態調査結果第1報はJANAPホームページに公表

http://janap.umin.ac.jp/pdf/NMD_2.pdf

調査対象と対象者の選定について

調査期間: 2019年9月1日～10月31日

調査対象: 特別養護老人ホーム744施設、介護老人保健施設747施設

対象の選定: 全国の介護保険施設として、特別養護老人ホームと介護老人保健施設とした。層化は、地区・人口・施設規模で行い、介護保険施設については独立行政法人福祉医療機構と全国老人保健協会のホームページで公開されている施設から無作為抽出とした。

調査方法と質問内容

調査方法：郵送法による無記名自記入式質問紙調査

施設の属性として、「施設種別」「施設の利用定員数」「所在地」、施設が被災体験のある場合は、最も大きかった被災について、浸水、断水、停電、ガス停止の有無。

水と非常食の備蓄については、これまでの災害により発生した課題状況等を参考に、本委員会で独自に作成し、その有無について回答を依頼した。

また、「役に立ったこと」「備蓄しておけばよかったこと」等を自由記述で回答を求めた。

データ分析

記述統計量を算出し、介護保険施設における非常用飲料水・非常食の備蓄に関する特徴を分析した。

自由記述については、記載内容の類似性と相違性から内容を整理した。

全体を比較検討し、「非常用飲料水・非常食に関する備蓄」に関する課題を分析した。

統計学的解析は、IBM SPSS statistics(ver.25)を用い、有意水準は0.05未満とした。

倫理的配慮

調査は無記名とし、個人名、施設名が特定される質問は除外した。

回答者の属性は質問していない。

回答は自由意思であること、回答しないことによる不利益はないことなどを書面で説明し、回答用紙の返信をもって、同意を得たと判断した。

宮城大学研究倫理専門委員会の承認を得て実施した(宮城第901号)

結果

調査にご協力をいただきました皆様に感謝いたします。

回収率

回答数:

配布数1,491施設, 回収400施設(26.8%)

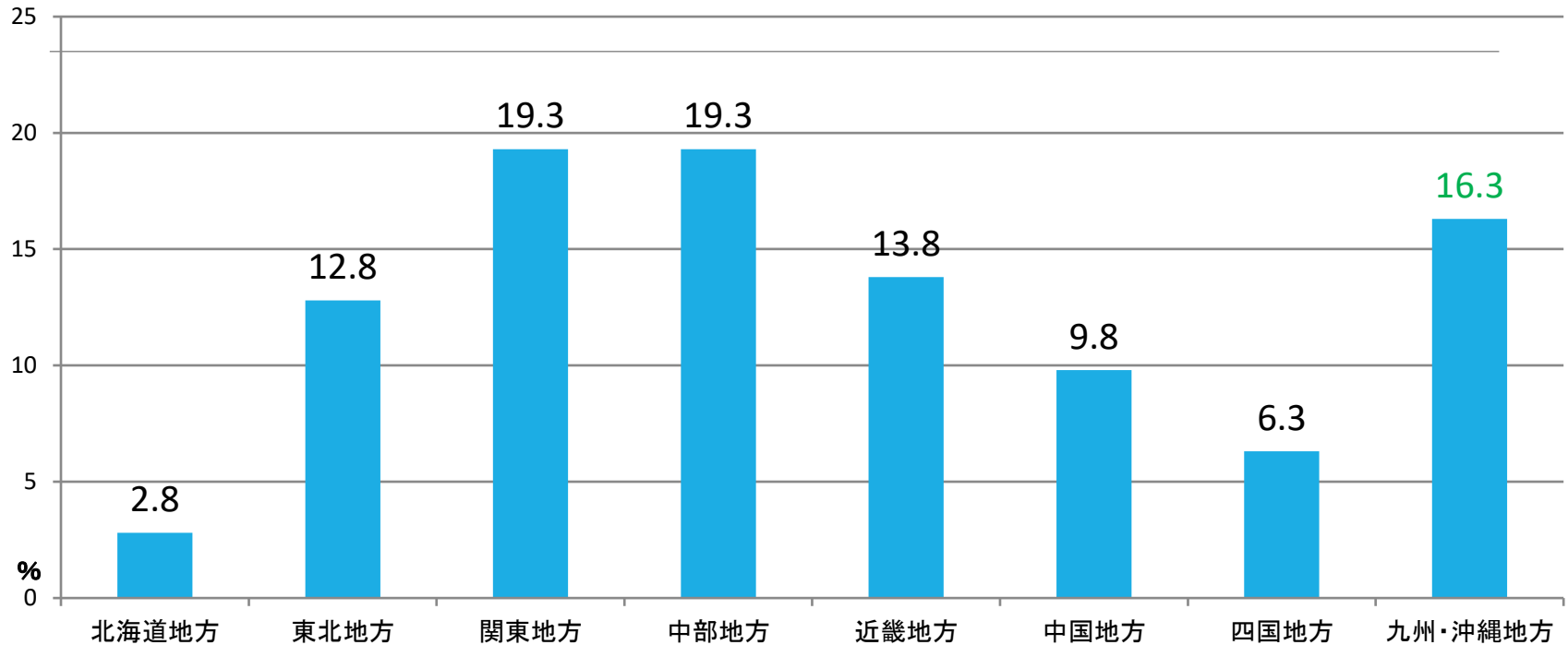
- ・特別養護老人ホーム744施設中203施設(27.3%)
- ・介護老人保健施設747施設中196施設(26.2%)

分析対象:

回答のあった400施設で, 内訳は特別養護老人ホーム203施設, 介護老人保健施設196施設、施設種別無回答の1施設.

地域別の回答率

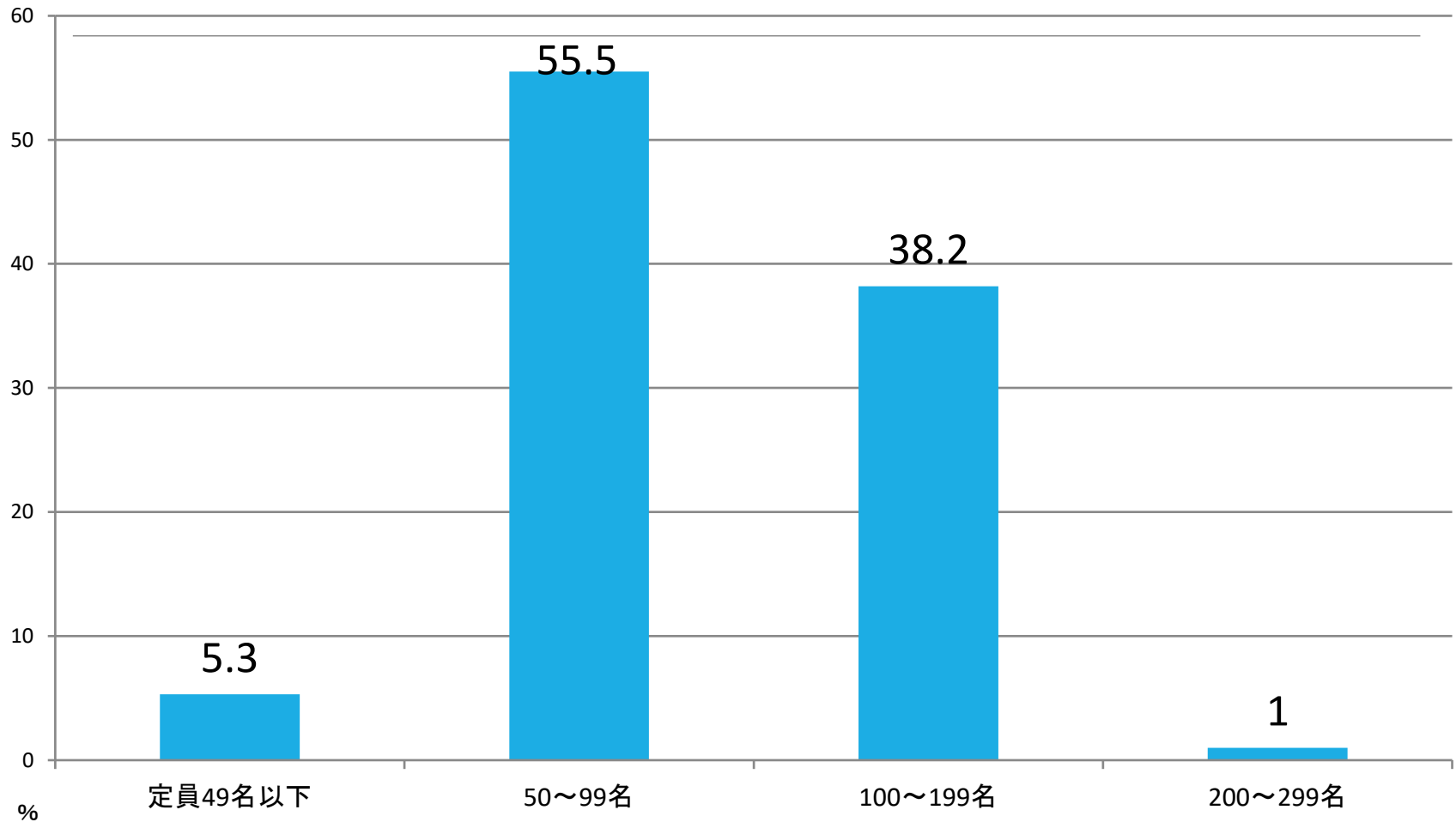
(n=400)



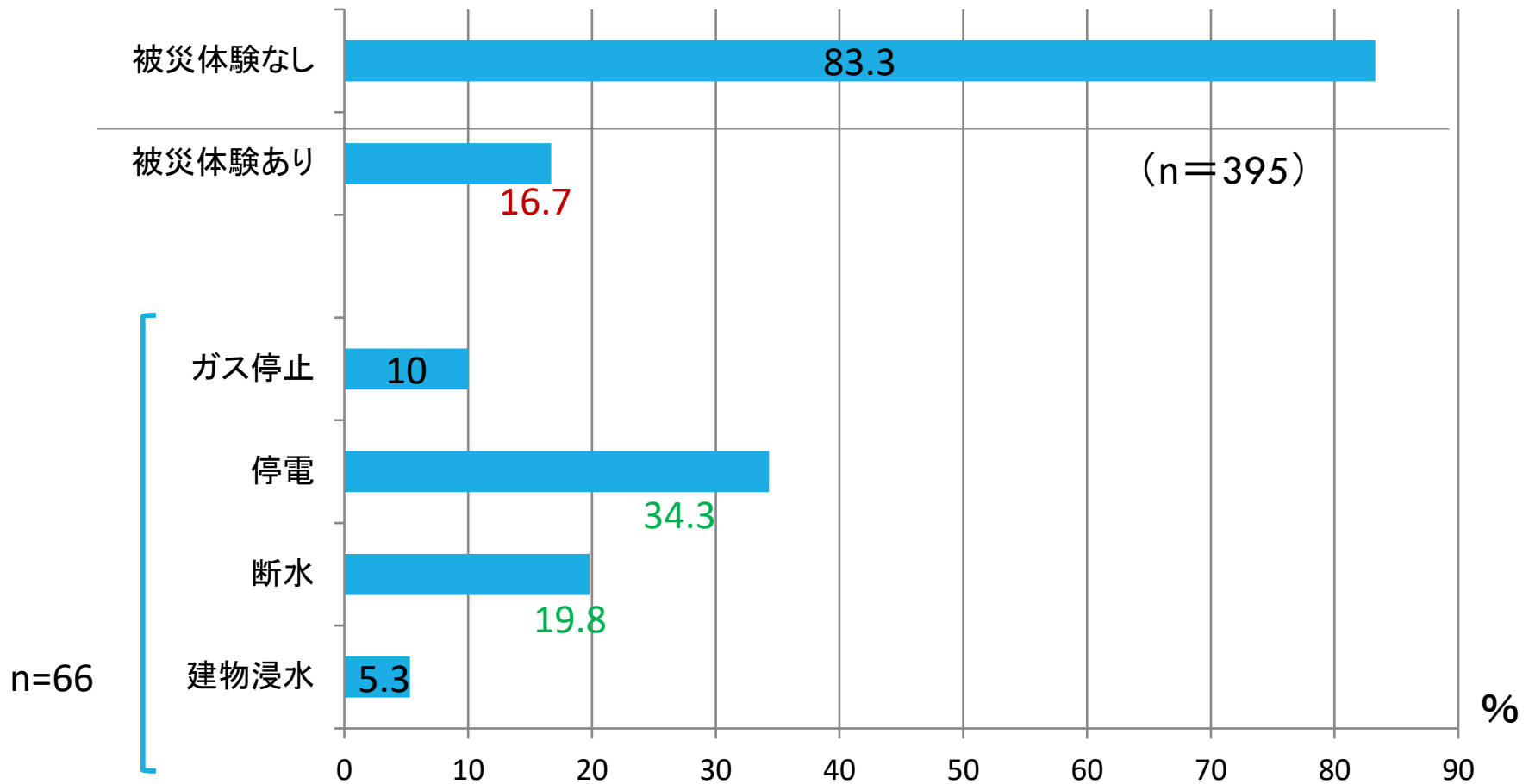
2018年医療施設調査と比較し、関東地方が24.5%だったところから**19.3%**と減少、全体に減少も、九州・沖縄地方のみ11.7%から**16.3%**と増加

対象施設の施設利用定員数の違い

(n=398)

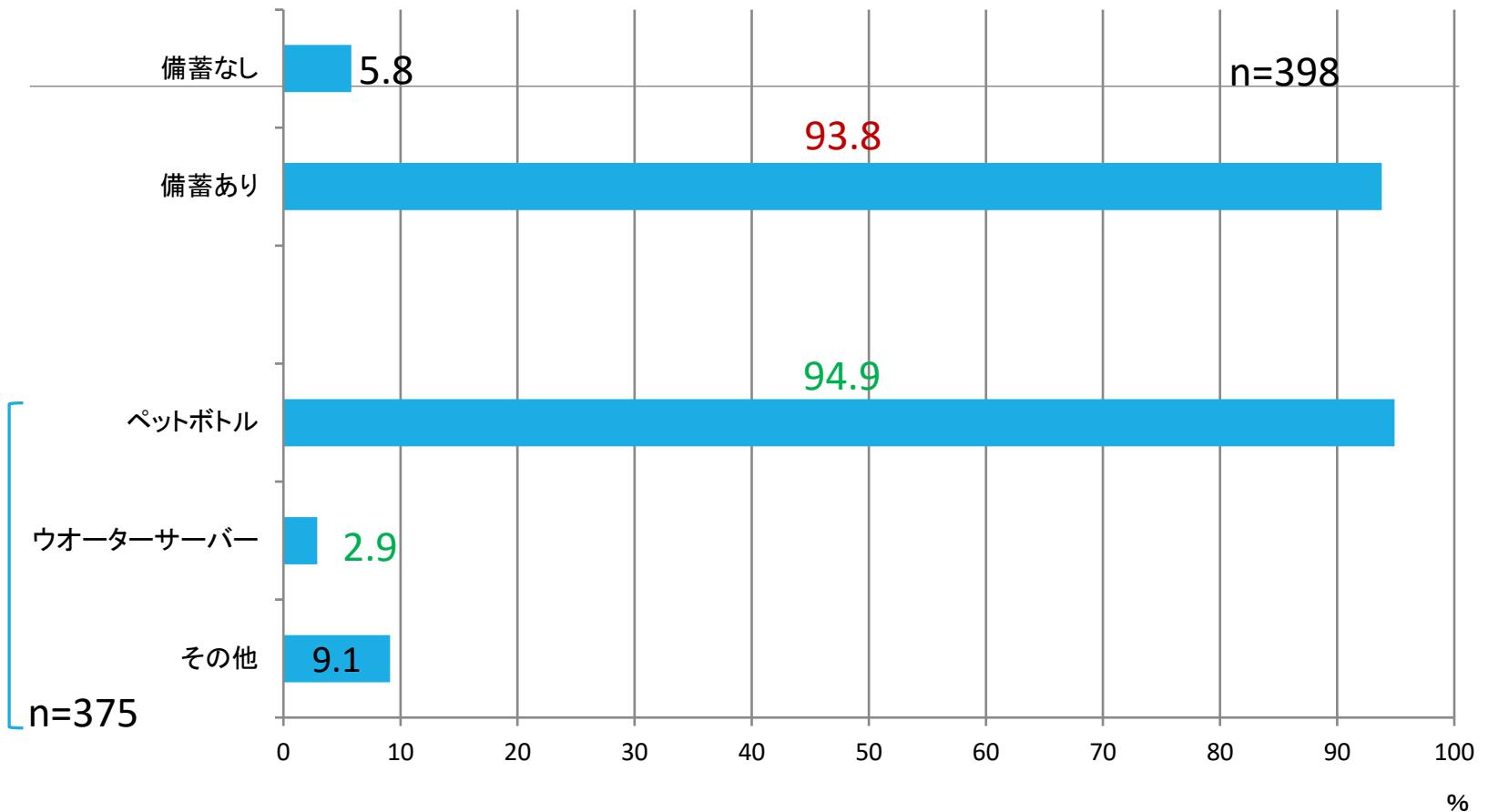


建物損壊等施設の被災体験



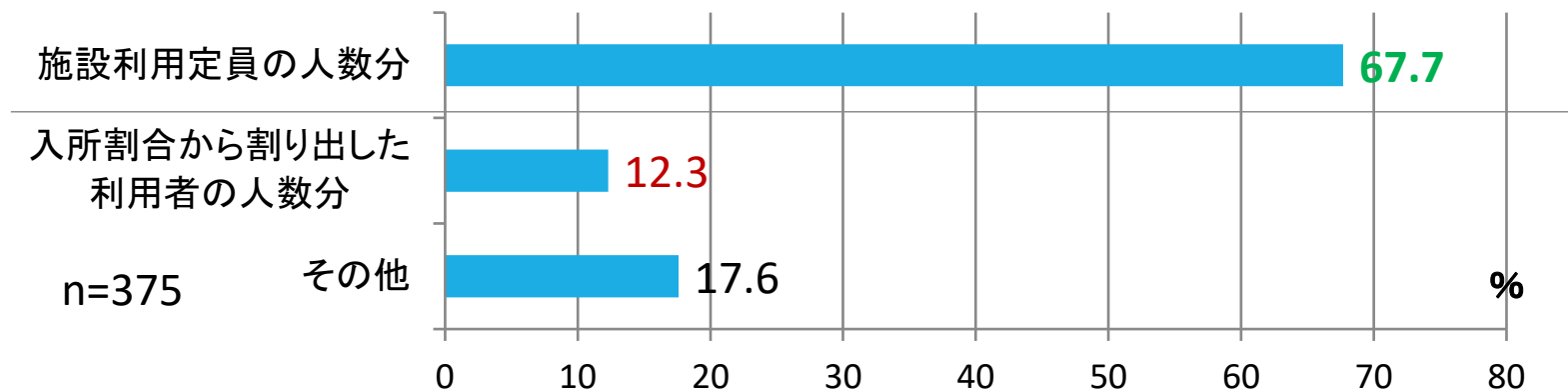
2018年医療施設調査結果:被災体験あり18.1%, 停電28.7%, 断水12%
介護保険施設結果:被災体験あり16.7%, 停電34.3%, 断水19.8%

利用者用飲料水の備蓄の実際



2018年医療施設調査結果：備蓄あり94.4%，ペットボトル79.9%，Wサーバ2.7%
介護保険施設結果：備蓄あり93.8%，ペットボトル94.9%，Wサーバ2.9%

利用者用「非常用飲料水」の備蓄基準量

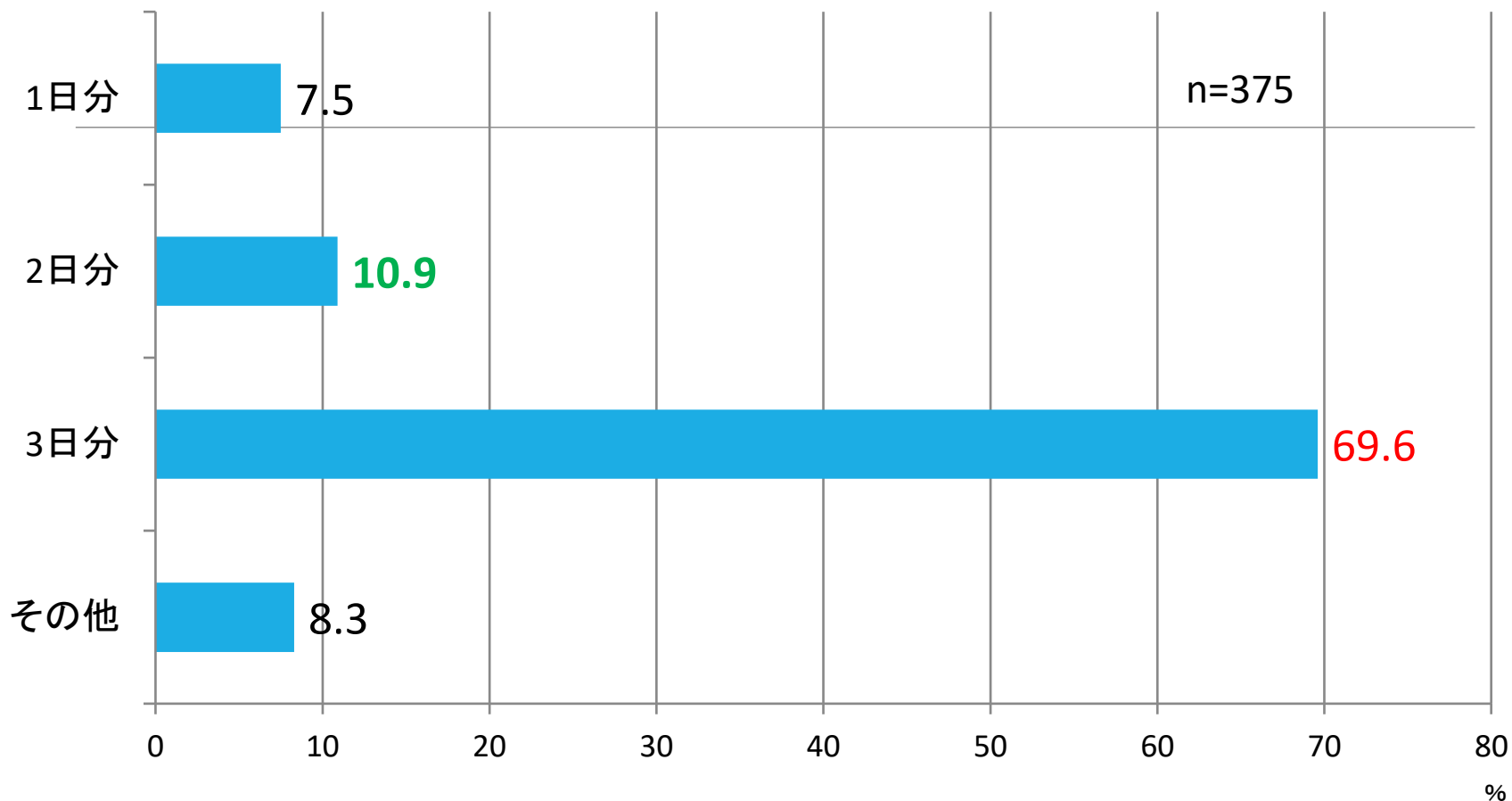


その他の主な記載内容

- 入所者+職員の約3日分
- 1日2ℓ=1人あたり
- 施設利用者人数分+職員分(短期入所, 通所介護)
- 入所者+職員+近隣からの避難者分
- 受水槽

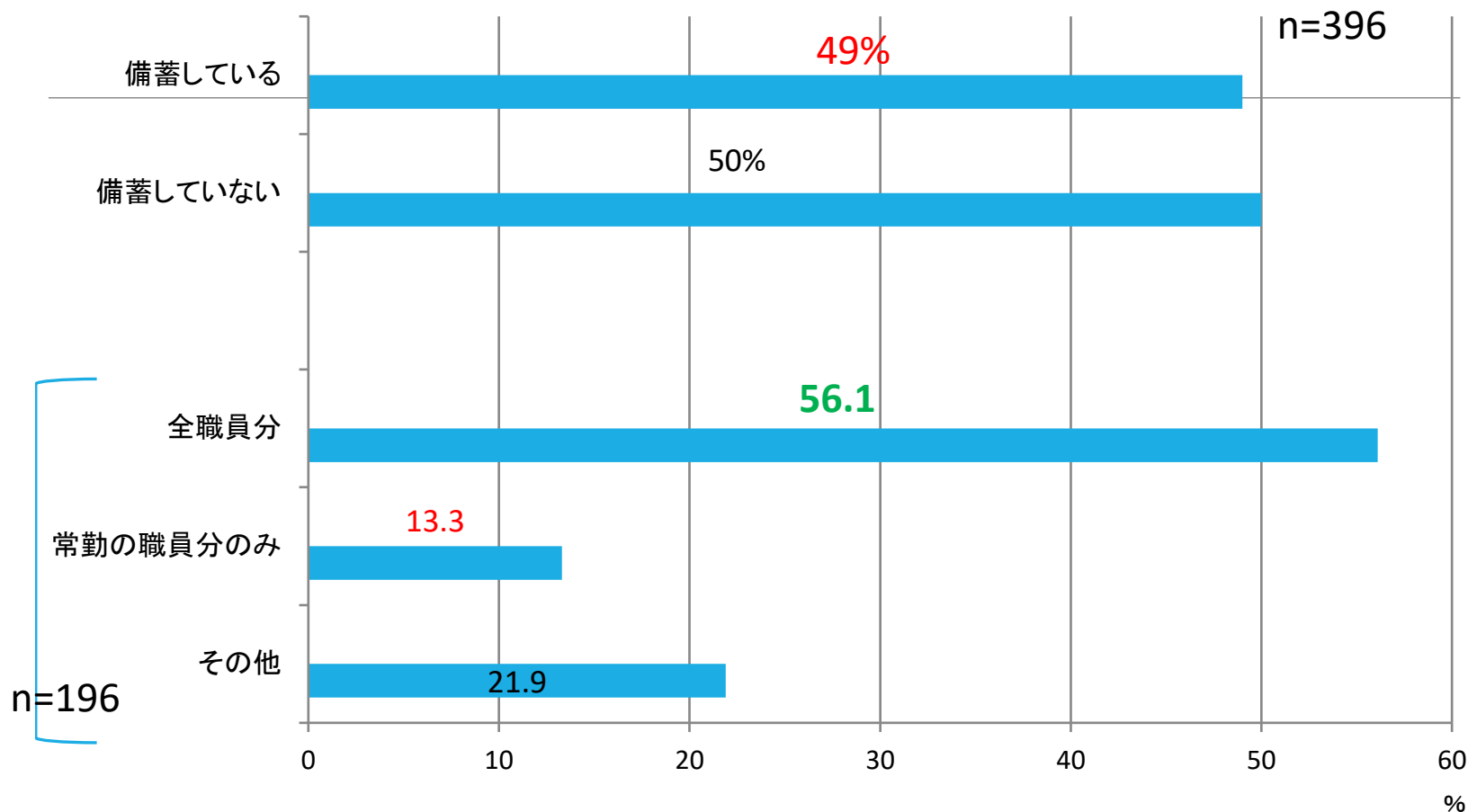
2018年医療施設調査結果: 許可病床数分47.4%, 病床利用率から割り出30.7%
介護保険施設結果: 施設利用定員人数分67.7%, 入所割合から割り出12.3%

利用者用「非常用飲料水」の備蓄日数



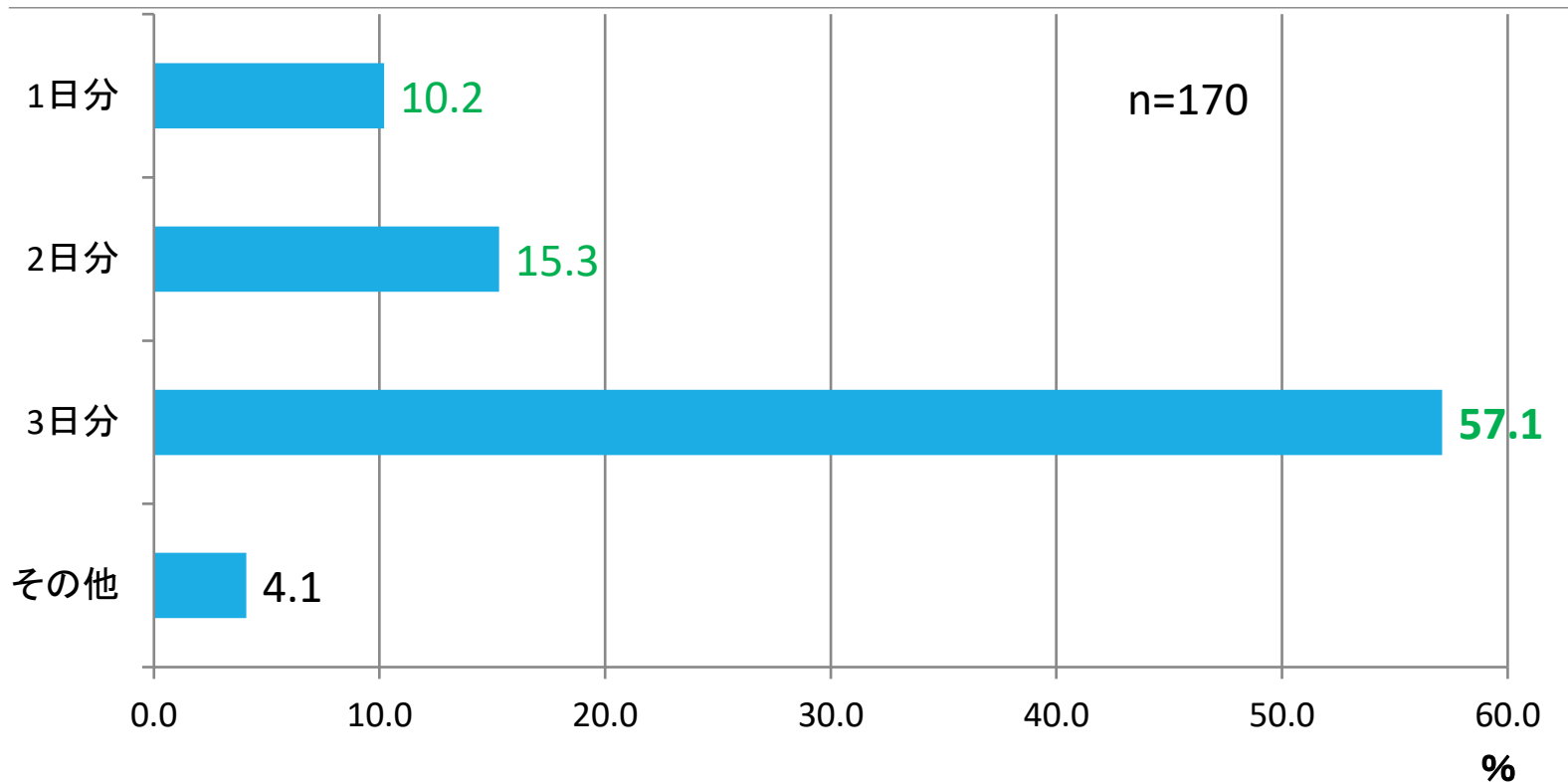
2018年医療施設調査結果：1日分7.7%，2日分8.3%，3日分77.8%
介護保険施設結果：1日分7.5%，2日分10.9%，3日分69.6%

職員用「非常用飲料水」の備蓄の実際



2018年医療施設調査結果：備蓄あり55.7%，全職員分51.3%，常勤職員分のみ14.8%
介護保険施設結果：備蓄あり49%，全職員分56.1%，常勤職員分のみ13.3%

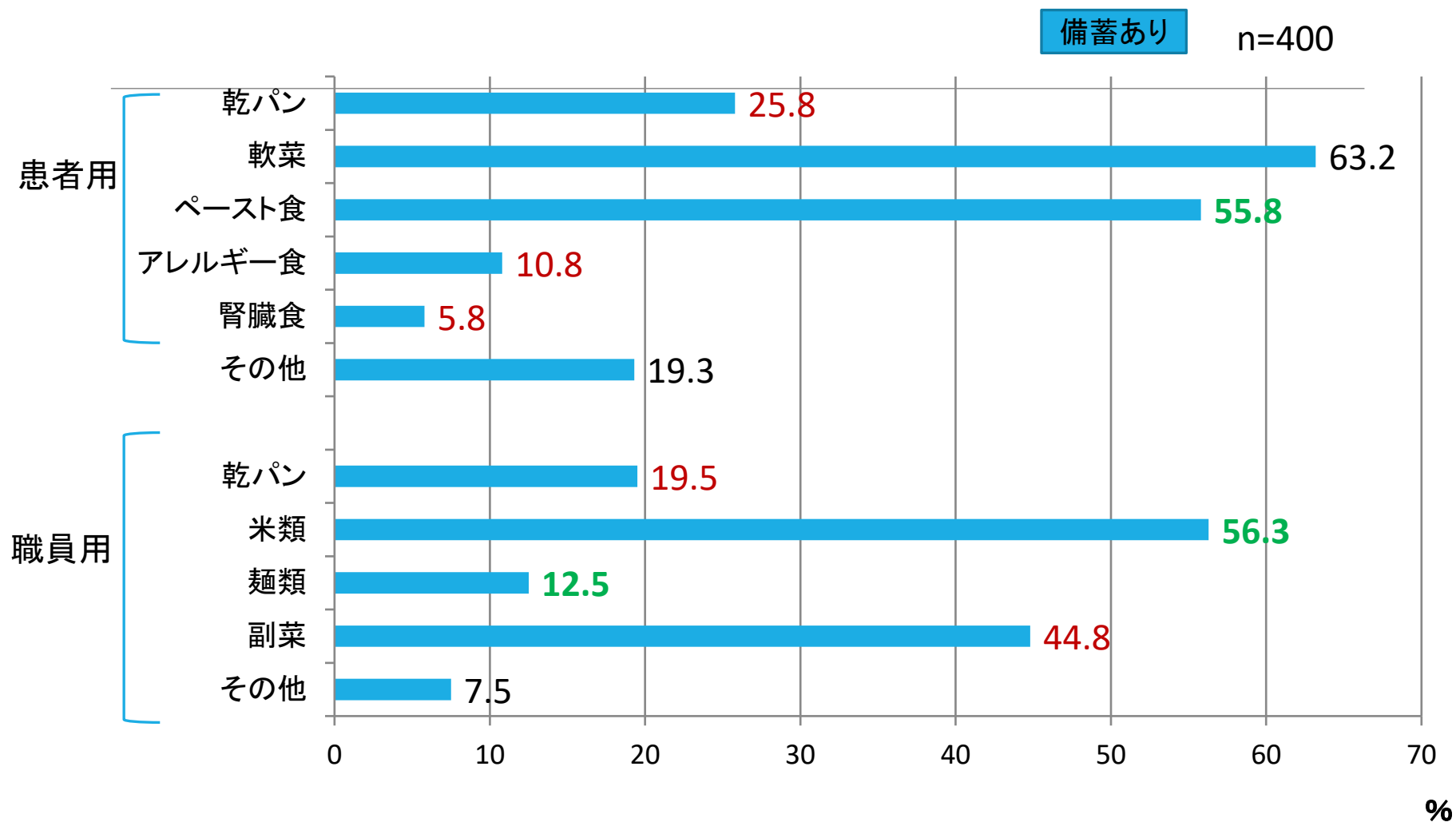
職員用「非常用飲料水」の備蓄量



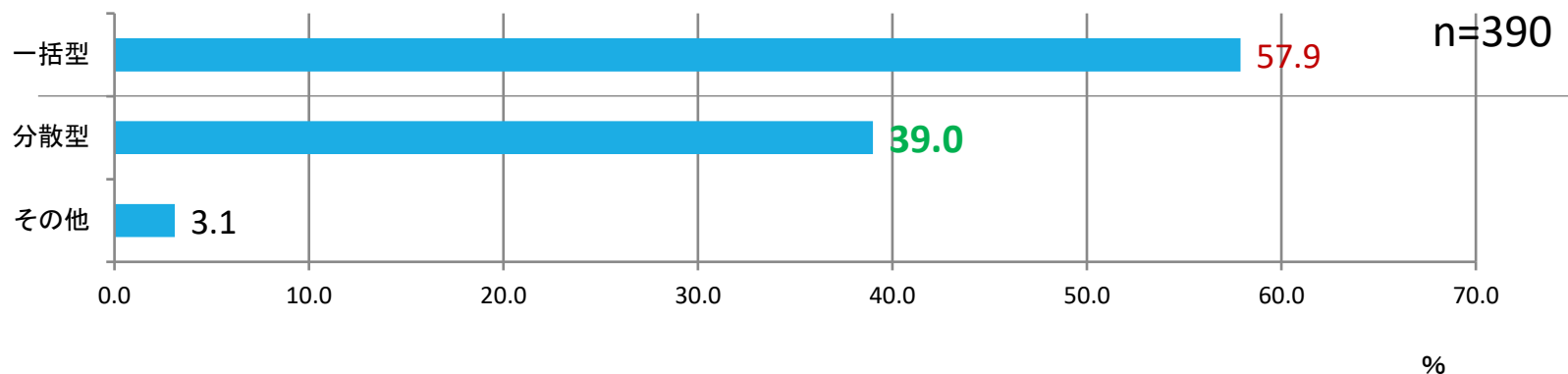
2018年医療施設調査結果:1日分 8.6%, 2日分 4.7%, 3日分37.9%

介護保険施設結果:1日分10.2%, 2日分15.3%, 3日分57.1%

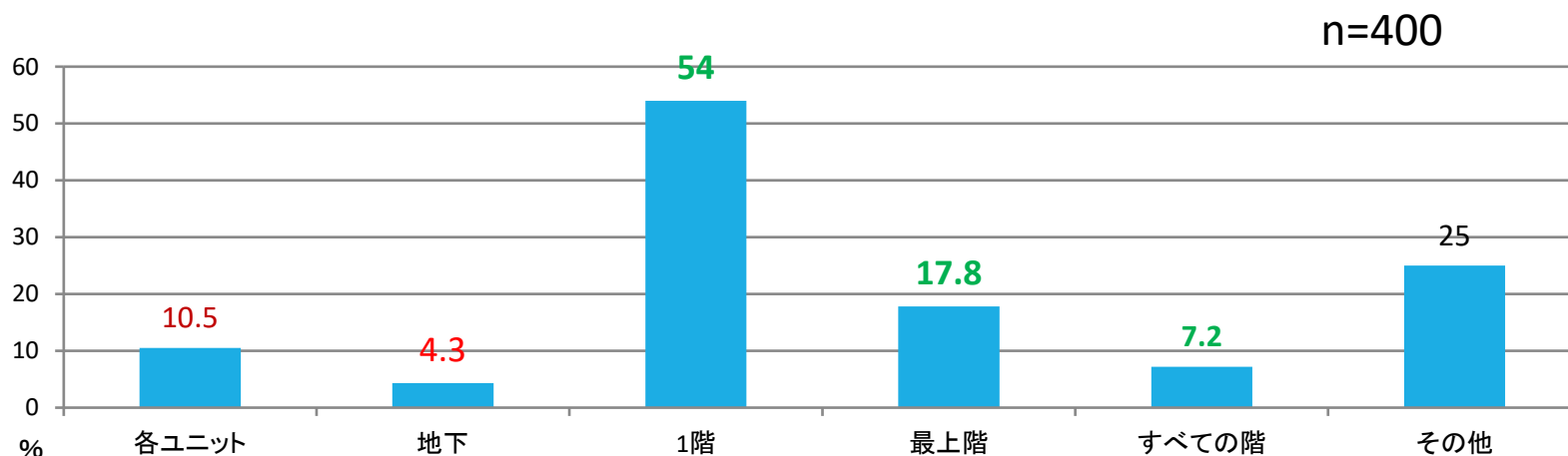
患者および職員用「非常食」の備蓄状況



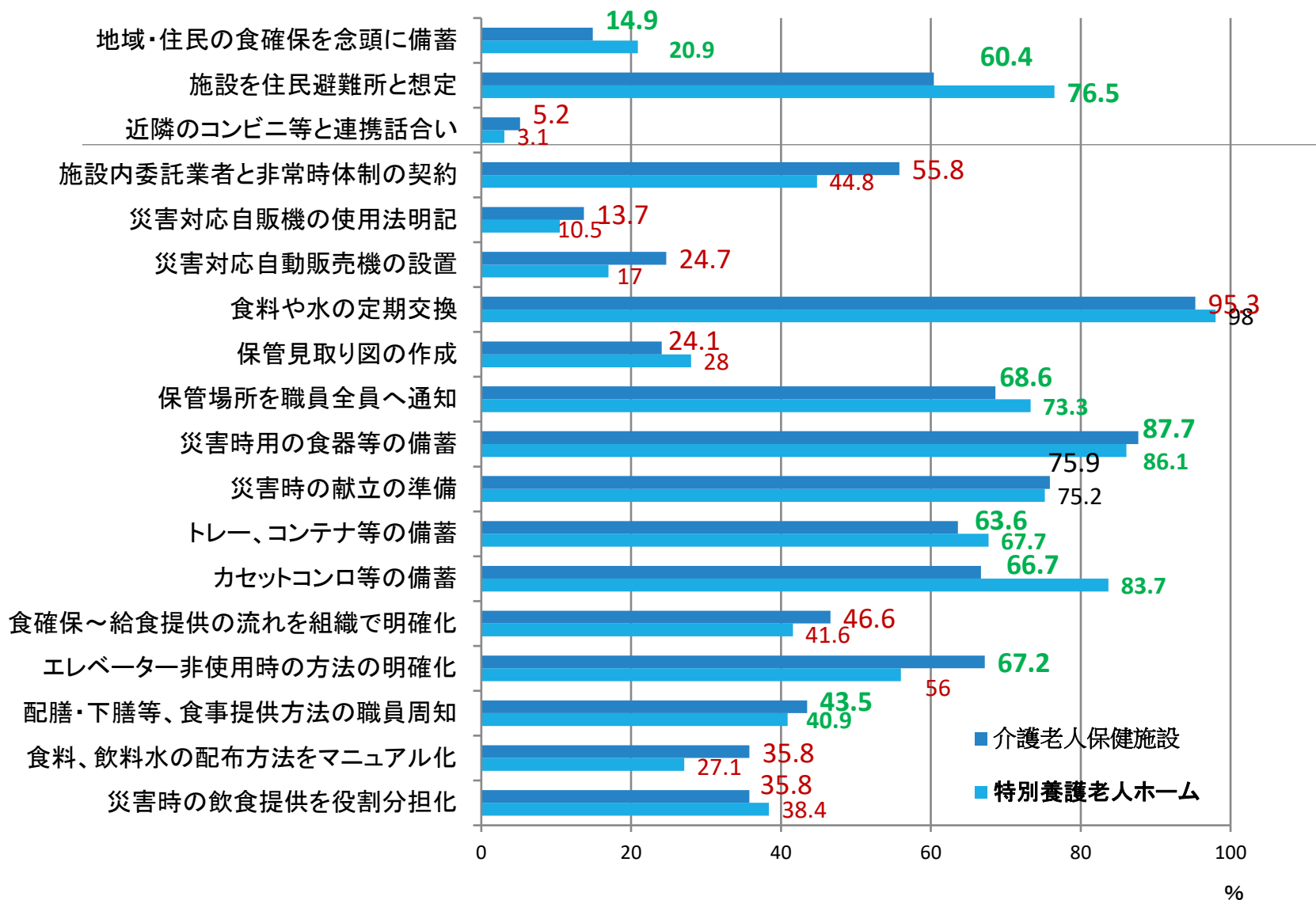
非常用飲料水・非常食の保管方法



非常用飲料水・非常食の保管場所



非常用飲料水・非常食のしくみに関する実施状況



利用定員数別の比較

	有無	定員49名以下	50～99名	100～199名	P値
災害用の食器, 箸, スプーン, 紙コップ等の備蓄	あり	15(75)	190(86)	139(89.7)	0.1575
	なし	5(25)	31(14)	16(10.3)	
保管場所の職員全員への通知	あり	15(75)	151(68.6)	114(73.5)	0.5391
	なし	5(25)	69(31.4)	41(26.5)	
保管場所の見取り図の作成	あり	6(30)	50(22.7)	47(30.5)	0.2219
	なし	14(70)	170(77.3)	107(69.5)	
食料や水の有効期限の維持のため定期的に交換している	あり	17(81)	215(98.2)	150(96.8)	0.0001*
	なし	4(19)	4(1.8)	5(3.2)	
災害対応自動販売機を設置している	あり	4(19)	39(18)	38(24.5)	0.3013
	なし	17(81)	178(82)	117(75.5)	

Fisher's exact test, $p < .005$

被災体験（建物損壊）の有無別の比較

	有無	被災経験あり	被災経験なし	P 値
災害時の飲食の提供について 役割分担の明記の有無	あり	26 (40)	120 (37.3)	0.6784
	なし	39 (60)	202 (62.7)	
食料, 飲料水の患者への配布方法が マニュアル化	あり	23 (34.8)	101 (31.4)	0.5805
	なし	43 (65.2)	221 (68.6)	
配膳・下膳の方法等, 食事の提供方法を 職員に周知	あり	28 (42.4)	135 (42.1)	0.956
	なし	38 (57.6)	186 (57.9)	
エレベーターが使えないことを想定して 方法を決めている	あり	36 (56.3)	195 (62.9)	0.3187
	なし	28 (43.8)	115 (37.1)	
食の確保から給食提供の流れを 組織として決めている	あり	30 (45.5)	140 (44)	0.8315
	なし	36 (54.5)	178 (56)	
カセットコンロ等の備蓄	あり	58 (87.9)	240 (73.2)	0.0111*
	なし	8 (12.1)	88 (26.8)	

χ^2 検定, $p < .005$

被災体験（建物損壊）の有無別の比較

	有無	被災経験あり	被災経験なし	P 値
トレー, コンテナ等, 食事を運ぶものの備蓄	あり	52(78.8)	205(62.9)	0.0131*
	なし	14(21.2)	121(37.1)	
災害時の献立の準備	あり	49(75.4)	249(75.9)	0.9273
	なし	16(24.6)	79(24.1)	
災害用の食器, 箸, スプーン, 紙コップ等の備蓄	あり	59(89.4)	283(86.5)	0.5298
	なし	7(10.6)	44(13.5)	
保管場所の職員全員への通知	あり	49(75.4)	230(70.3)	0.4118
	なし	16(24.6)	97(29.7)	
保管場所の見取り図の作成	あり	18(27.3)	85(26.2)	0.8508
	なし	48(72.7)	240(73.8)	
食料や水の有効期限の維持のため 定期的に交換	あり	64(98.5)	315(96.3)	0.3808
	なし	1(1.5)	12(3.7)	

χ^2 検定, $p < .005$

災害に役に立った経験 生活編

ペットボトル(500ml)10本程度

非常電源

アルファ米

ディスポーザル食器, スプーン, 割り箸

災害に役に立った経験 介護用品

常食～刻み食, ミキサー食, 栄養補助食品など
ミキサー(自家発電機があれば使用可能)

備蓄しておけばよかったもの 生活編

発電機

ランタン, ラジオ

カセットコンロ

ヘルメット, 軍手, ホイッスル, 雨靴

簡易トイレ

スマホ充電器

ガソリン

ウェットティッシュ(アルコール含・清拭用・口腔用・おしり用・弁当用トレイ)

食品用ラップフィルム, 大きめのビニール袋

非常食(無水米, パンの缶づめ)

備蓄しておけばよかったもの 介護編

紙おむつ

栄養補助食品や濃厚流動食

とろみ剤

ゼリー飲料(カロリーがあるものと、水分補給用)

エアースクエア敷マット

義歯ケース

利用者の食事内容が確認できる紙データ

備蓄を進める上での工夫と課題

【工夫】

近隣の福祉事務所やホテルと非常時の契約を行っている
ドライアイスを購入して冷凍庫の代用
費用, 保管場所の確保

【課題】

地域住民の備蓄品の備えをどう考えるか
災害時の詳細な役割分担
地域と連携するための話し合い
被災時の職員確保, 参集方法
被災時の通所リハビリ患者の送迎方法
水と食以外の備蓄はどうするか

災害時対応全体に及ぶ課題

ご利用を！「災害に関する看護管理お役立ち情報」

http://janap.umin.ac.jp/pdf/NMD_3.pdf

飲料水や非常食の備蓄チェックリスト

- 食の確保から給食提供の流れを組織として決めている
- 災害時の飲食の提供について役割分担を文書化している
- エレベーターが使えないことを想定して、飲食提供の方法を決めている
- 食料や飲料水を患者/利用者に配付する方法をマニュアルにしている
- 配膳・下膳の方法等、食事の提供方法を職員に周知している
- お湯を沸かす、食事を温めるカセットコンロ等を備蓄している
- トレー、コンテナ等、食事を運ぶものを備蓄している
- 災害用の食器、箸、スプーン、紙コップ等を備蓄している
- 災害時の献立を準備している
- 保管場所について、全職員に通知している
- 備蓄している保管場所について見取り図を作成している
- 食料や水の有効期限を維持するよう定期的に交換している
- 災害対応自動販売機（災害時に無料で飲料を提供）を設置している
- 災害対応自動販売機の使用方法を明記している
- 施設の委託業者と非常時の食料や水の提供について契約している
- 施設の近隣のコンビニ等と連携できるように話し合っている
- 施設が住民の避難所となる役割を担っているまたは可能性がある
- 避難所を想定する場合、自治体等と住民の食の確保について検討している